



兵庫県遊技業協同組合
「障害のある子ども達に
夢をあたえる支援」
事業



兵庫県遊技業協同組合
理事長
平山龍一さん

障がい児の支援事業で
長い実績を誇る団体に
20年間にわたって
活動支援金を寄贈

1968年から心身障がい児に対して
心のこもった寄り添いを実施

神戸市に拠点を置く公益財団法人「ひょうご子どもと家庭福祉財団」は、1968年に「心身障害児福祉ビューロー」というボランティア団体として活動を始め、50年以上の歴史をもつ団体である。また、社会に障がい児への理解や公的支援も少なかったなかで、神戸や阪神間にある大学の学生たちが中心となって、心身障がい児の家庭訪問やレクリエーション活動を行ってきた。1973年には「兵庫県心身障害児福祉協会」と名称を改め、78年には兵庫県から財団法人の認可を受け、その後、「ひょうご子どもと家庭福祉財団」と改称し、現在に至っている。

近年は発達障がい児の支援に力を入れ、神戸市と三田市の2カ所に子ども発達支援センターを開き、聴覚言語療法や理学療法、作業療法などを取り入れ、療育訓練、療育相談、児童発達支援・放課後等デイサービスなどの療育事業を行っている。また、子どもたちの個性を育てるソーシャルプログラムとして、中学生・高校生のためのプログラム、心と身体を鍛える活動、ファミリーレクリエーション、サマースクールなどの季節のプログラムなどにも力を入れている。

兵庫県下各地の福祉向上や文化育成への貢献を目的に、様々な福祉活動、地域振興活動を行う各種団体に、毎年一定額の支援金を贈呈する「はあ〜とふるふあんど」などの社会貢献活動に取り組んでいる兵庫県遊技業協同組合では、同財団の事業に賛同し、2004年から継続して支援活動を行ってきた。

障がいのある子どもたちが憧れの仕事に
楽しく挑戦するレクリエーションを支援

同組合では、2004年～19年まで同財団が実施する「ディズニー・オン・アイス」大阪公演へのレクリエーションツアーに対して支援金を寄贈してきた。さらに2020年からは、同財団が主催する「夏のレクリエーションツアー」に対する支援金を寄贈している。このツアーは、特別支援学校（小・中学校）、通園施設、小学校、幼稚園・子ども園などに通う障がいのある子どもたちが、保護者とともに兵庫県西宮市のらぼーと甲子園内にあるキッズニア甲子園を訪れ、多くのスタッフがサポートするなかで、自由に伸び伸びと憧れの仕事にチャレンジし、楽しみながら社会の仕組みを学ぶことができるというものである。この事業に対して、同組合では2023年、50万円を支援した。



支援金を寄贈している「夏のレクリエーションツアー」

2023年の「第44回夏のレクリエーションツアー」は、9月2日と10月21日の2回実施した。ツアーに参加したのは、神戸市、三田市、高砂市、加古郡、明石市、加古川市、三木市、加東市、西宮市、尼崎市に住む方々で、1回目には計158名（大人84名、子ども74名）、2回目には計156名（大人81名、子ども75名）の参加者があった。



ツアーに参加した子どもたちは様々な仕事にチャレンジ

参加した保護者からは、「子どもを客観的に見ることができて有意義だった」「次回もぜひ参加したい」「普段は一緒に外出するハードルが高いが、年1回の遠出を楽しめた」「通常よりも安くキッズニアを利用できた」「スタッフが多く、落とし物や迷子のときの対応が速かった」「自分がやりたいことを選んで、子どもたちが積極的に楽しめた」といった声が多く寄せられ、おおむね好評だった。

20年間にわたる同組合の継続的な支援活動に対して、同財団からは高い評価を得ており、2023年も同組合（兵遊協福祉基金）に感謝状が贈られている。